



イフジ産業の鶏卵相場予想

2022年 2月 の鶏卵相場予想

180円

(全農東京相場LM加重平均)

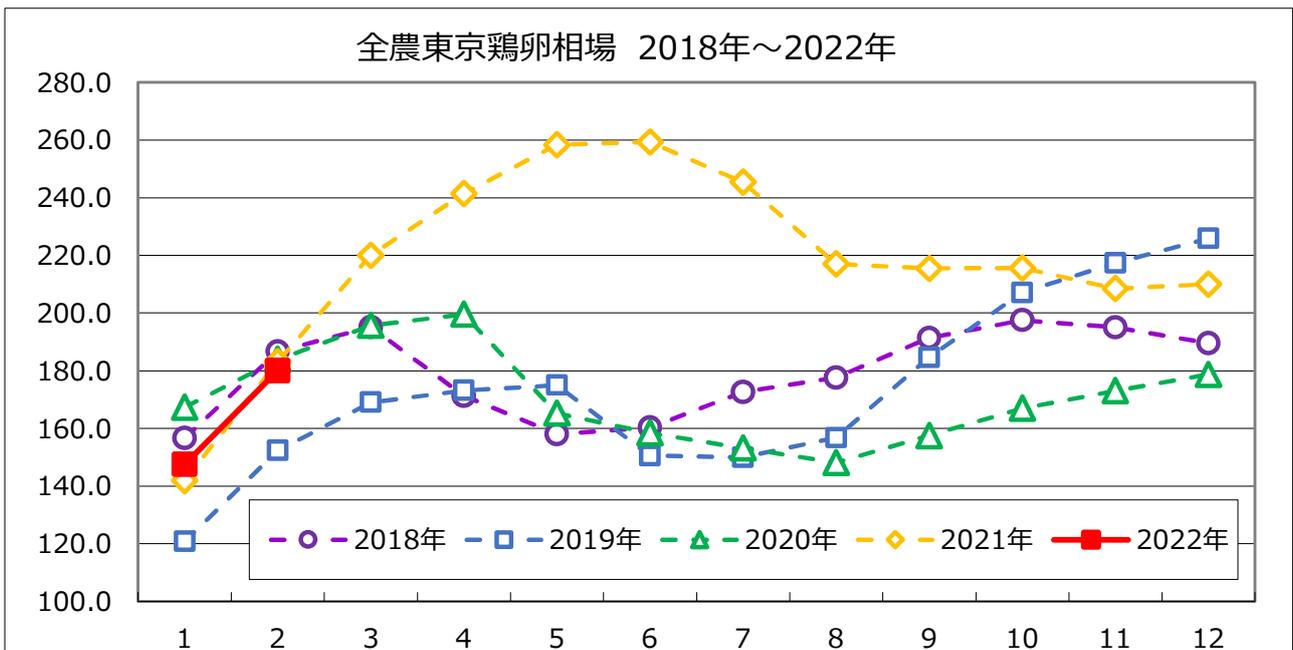
新年1月の相場ですが、前月最終値から70円値を下げた、Lサイズ140円・Mサイズ140円でスタートしました。その後、1月18日に両サイズ10円、1月20日に両サイズ10円、1月25日に両サイズ5円上昇しました。(令和4年1月25日時点のLM加重平均は165円)

供給面では、1月に入り相場が下落したことで成鶏更新・空舎延長事業が発動されました。そのため羽数が減少したことにより幾分か締まってきたように感じられます。鳥インフルエンザについては、全国で10例(採卵鶏での発生:約75万羽)発生しています。現状では限定的な影響であるため、大きな変化はありません。需要面では、比較的穏やかなスタートに感じられます。オミクロン株による新型コロナウイルス感染者が急増しており、各都道府県でまん延防止等重点措置が発令しています。この影響で業務筋や外食関係については再び需要低下となっているように見受けられます。1月の月間LM加重平均は147.5円(令和4年1月25日までの平均値)

さて、2月の相場予想ですが、供給面では年末年始の生産調整明けの鶏の復帰時期とはなりますが、上記記載の通り、成鶏更新・空舎延長事業の発動に伴い生産量の低下が考えられます。また、昨年に続き飼料コストが高騰しているため、今後も生産調整が続く可能性もございます。一方の需要面ですが、新型コロナウイルス感染者の増加で、引き続き業務筋や外食関係は需要減となる見込みです。しかしながら、再び巣ごもり需要の拡大が考えられ、テーブルエッグや冷凍食品など家庭内需要は増加傾向となることが予測されます。また、恵方巻の時期でもあるため、一時的な需要増加も見込まれます。2月の相場については月間を通して強含みになると予想いたします。

現在は大きな影響が出ていない鳥インフルエンザですが、3月末頃までは発生時期が続きます。採卵鶏以外にブロイラーやあひるでも、全国で点々と発生していることを考えると、いつ急激な蔓延となってもおかしくない状況です。そのため、2月以降の動向次第では状況が一変する可能性があります。

2月の月間LM加重平均は180円付近と予想いたします。



※2022年1月の相場は1月25日までの平均値。2月は予想値。
※予想は当社独自のものであり、あくまで予想です。
※この情報に関するお問い合わせ等はご遠慮ください。

Egg ×
Something =

「タマゴテック」でライフスタイルの殻を破る

